

2022. 8. 22 “一つのニュースから先を読む”

私の仕事について改めて振り返ると、新卒で入社した会社では、退職するまでの12年間次々増えていく経理業務をこなすのに必死で、まさに仕事に追われ、駆け抜けた印象です。2社目に当社へ入社しましたが、経済に関して無知なまま家事育児仕事に体力を奪われ、あっという間に年月が過ぎていきました。その間、業務、調達、生産管理へと配属が目まぐるしく変わり、再度調達へ配属替えとなった時には、前任者の仕事を大きく引き継ぐ必要があり、知識のない私は相当悩みました。しかし、冷静に私にできることを探し、少しずつ挑戦すること、情報を共有し、営業・製造・仕入先などを巻き込んで解決策と一緒に練ること、と自分の中でルールを決めると、今まで見て見ぬ振りをしていた社会情勢にも気を配る余裕ができ、仕事の進め方が見えてきたような気がします。

恥ずかしながら“経済とは何か”ということに重きをおかない生活をずっと続けてきたので、大きく揺らぐ社会情勢、人類・自然存続のための流れ（SDGs）にどういった知識を得て、どう対応していったらよいのか漠然と悩んでいた矢先にこの本が手渡され、焦ると同時にいいチャンスだと感じました。早速本を開きましたが、案の定分からない言葉ばかり、4択の問題を解いても誤回答ばかりと、焦る要素しかありません。少しずつ読み進めています。初めて知る内容がほとんどで、理解に至るまで相当な時間がかかり悪戦苦闘しています。

しかし、私の所属している調達チームは、納入できない部品や原材料があるとたちまち客先への納品ができなくなるなど、会社の機能に多大な影響がある部門です。今までのようにどこかの国で伝染病が流行した、戦争が始まったと聞いても、“遠く、自分に関係のない話”と思ってやり過ごす訳にもいなくなりました。2022年8月の今、例えば知らない国のニュースだとしても、やがて自分の回りのモノの価格変動に影響を及ぼし、普段の生活にも多大な変化をもたらし、会社の利益にも大きく作用する危険性がある、という認識に変わりました。

先日、ニュースで欧州の大動脈といわれるライン川が、記録的熱波の影響で急速に水位が下がり、船舶での航行が困難となっているとの報道がありました。船がだめなら車はどうだろうか？と思って見ていると、今まで船で移動するのが当たり前だったので、96km先まで橋がないとのこと。塩の輸送についてインタビューを受けていた男性は今まで一回で2200t運んでいたが、座礁の恐れがあるため600tに減らしている。水位が下がるほど座礁を避けるため荷物は少なくなると話していました。運搬が何度も繰り返されると、現在高騰している輸送費がさらに跳ね上がり、それがモノの単価に反映されていくだろうと今では容易に想像できます。これは塩に限ったことではなく、同様の事が他のモノに関しても起こり得る事象です。こういった場合、何が適切な価格なのか、以前と同じ計算では対応できません。複数の会社で見積もりを取り、価格の妥当性を見極めていく作業を踏むことで、今の情勢が反映された価格を知ることができ、客先の理解を促す資料を集めることが可能となります。

このニュースを見てドイツの輸出品目を調べたところ、電子製品、電気機器、医薬品、金属、輸送機器、食品、繊維、ゴム・プラスチック製品などが該当するとのことでした。ライン川は全長1233kmに及び、ヨーロッパ諸国を流れているため必ず経済停滞の元となるでしょう。現在は鉄道で輸送することを検討している模様で、他の輸送方法にも混乱が波及する恐れがあるとの事です。ゴム製品など当社に関係する品目もあるので、一定の期間を経て影響があると想定しています。ひとつのニュースから先を読み、前もって知識を得られるようになると、一手早く動き出す事が可能になりますので、微力ながら、引き続き情報収集を続け、迅速・正確な対応をしていきたいと思っています。